

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3954549号

(P3954549)

(45) 発行日 平成19年8月8日(2007.8.8)

(24) 登録日 平成19年5月11日(2007.5.11)

(51) Int. Cl.	F I
A 6 1 F 13/496 (2006.01)	A 4 1 B 13/02 U
A 6 1 F 5/44 (2006.01)	A 6 1 F 5/44 H
A 6 1 F 13/49 (2006.01)	A 4 1 B 13/02 F
A 6 1 F 13/514 (2006.01)	A 4 1 B 13/02 S
A 6 1 F 13/15 (2006.01)	

請求項の数 4 (全 14 頁)

(21) 出願番号	特願2003-311717 (P2003-311717)	(73) 特許権者	000110044
(22) 出願日	平成15年9月3日(2003.9.3)		株式会社リブドゥコーポレーション
(65) 公開番号	特開2005-74157 (P2005-74157A)		愛媛県四国中央市金田町半田乙45番地の2
(43) 公開日	平成17年3月24日(2005.3.24)	(74) 代理人	100075409
審査請求日	平成18年5月31日(2006.5.31)		弁理士 植木 久一
早期審査対象出願		(74) 代理人	100067828
			弁理士 小谷 悦司
		(74) 代理人	100097054
			弁理士 麻野 義夫
		(72) 発明者	春木 薫
			徳島県美馬郡貞光町太田字小山北89-1
			株式会社リブドゥコーポレーション 徳島貞光工場内
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 パンツ型使い捨ておむつ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

前腹部と、後背部と、これら各部間の股部の両側に形成された脚穴部と、前記前腹部と後背部の両側縁部を接合することにより形成されるウエスト開口部とを有するとともに、上記股部に吸収性本体を備えたおむつ本体を備え、上記前腹部及び後背部のウエスト開口部に対応する部分には、ウエスト用弾性部材がおむつ幅方向に伸張状態で添設される一方、上記脚穴部には、脚穴に沿って脚穴用弾性部材が伸張状態で添設されたパンツ型使い捨ておむつであって、

上記おむつ本体は、前腹部と後背部とを連結するシートが股部に対応する位置にある第1の折り返しラインに沿って折り返されることにより構成されており、

上記おむつ本体には、前腹部と後背部とを重ねるように複数のおむつ本体を重ねた場合に各おむつ本体の側方位置から確認可能となるように、当該おむつ本体のサイズや前後方向等の識別情報を表示する表示部が、上記シートの折り返された外側部分に形成されると共に、上記表示部は、前腹部および／または後背部に亘って延設されていることを特徴とするパンツ型使い捨ておむつ。

【請求項2】

前腹部と、後背部と、これら各部間の股部の両側に形成された脚穴部と、前記前腹部と後背部の両側縁部を接合することにより形成されるウエスト開口部とを有するとともに、上記股部に吸収性本体を備えたおむつ本体を備え、上記前腹部及び後背部のウエスト開口部に対応する部分には、ウエスト用弾性部材がおむつ幅方向に伸張状態で添設される一方

10

20

、上記脚穴部には、脚穴に沿って脚穴用弾性部材が伸張状態で添設されたパンツ型使い捨ておむつであって、

上記おむつ本体は、前腹部と後背部とを連結するシートが股部に対応する第1の折り返しラインに沿って折り返され、さらに、この第1の折り返しラインとは異なる1以上の折り返しラインに沿って折り畳まれることにより構成されており、

上記おむつ本体には、複数のおむつ本体を重ねた場合に各おむつ本体の側方位置から確認可能となるように、当該おむつ本体のサイズや前後方向等の識別情報を表示する表示部が、上記シートの第1の折り返しラインの外側部分に代えてまたは加えて、上記第1の折り返しラインとは異なる1以上の折り返しラインの外側部分に形成されると共に、上記表示部は、前腹部および／または後背部に亘って延設されていることを特徴とするパンツ型使い捨ておむつ。

10

【請求項3】

請求項1または請求項2に記載のパンツ型使い捨ておむつにおいて、上記おむつ本体の長さ方向において、第1の折り返しラインの外側部分の表示部の形成位置に対応する個所に脚穴用弾性部材が添設されていないことを特徴とするパンツ型使い捨ておむつ。

【請求項4】

請求項1乃至請求項3の何れかに記載のパンツ型使い捨ておむつにおいて、上記表示部は、おむつ本体に対してインクジェット方式により印刷されていることを特徴とするパンツ型使い捨ておむつ。

【発明の詳細な説明】

20

【技術分野】

【0001】

本発明は、パンツ型使い捨ておむつ及びその製造方法に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来から、前腹部と後背部とこれら各部間の股部の両側に形成された脚穴部と、前記前腹部と後背部の両側縁部を接合することにより形成されるウエスト開口部とを有するおむつ本体を備え、上記前腹部及び後背部のウエスト開口部に対応する部分には、ウエスト用弾性部材が伸張状態で添設される一方、上記脚穴部には、脚穴に沿って脚穴用弾性部材が伸張状態で添設されたパンツ型使い捨ておむつ（以下、パンツ型おむつと示す）が知られている。

30

【0003】

この種のパンツ型おむつは、上記ウエスト用弾性部材及び脚穴用弾性部材の弾性力によりおむつ本体が縮められた状態とされているため、着用時にそのサイズや前後方向等の識別情報を認識することが困難であった。そこで、着用時に識別情報を認識可能とする、例えば、特許文献1及び特許文献2のようなパンツ型おむつが知られている。

【0004】

上記特許文献1のパンツ型おむつは、ウエスト開口部の内側に前後方向を認識可能とする文字が付されている一方、特許文献2のパンツ型おむつは、おむつ本体の後背部に図柄が印刷されている。

40

【特許文献1】特開平10-298801号公報

【特許文献2】特開2000-266号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

上記特許文献1のパンツ型おむつを着用する場合、着用者は、ウエスト開口部を広げることにより、その内側に付された文字を確認することができるため、パンツ型おむつの前後方向を認識することができる。一方、上記特許文献2のパンツ型おむつを着用する場合、着用者は、おむつ本体の前後を確認することにより、図柄の印刷された側がおむつ本体の後ろ側であることを認識することができるため、パンツ型おむつの前後方向を認識する

50

ことができる。

【0006】

ところで、日常的に複数種類のパンツ型おむつを使用する介護施設等においては、即座に使用可能とするために包装袋から取り出された複数のパンツ型おむつを重ねて保管することが多い。上記特許文献1のパンツ型おむつを重ねて保管する場合、そのサイズや前後方向等の識別情報を認識するためには、重ねられた複数のパンツ型おむつの中から特定のものを取り出して、このパンツ型おむつのウエスト開口部を広げるといった煩雑な作業が必要であった。また、上記特許文献2のパンツ型おむつを重ねて保管する場合、その後背部に印刷された図柄が他の重ねられたパンツ型おむつに隠れてしまうため、この場合にも、その識別情報を認識するには、重ねられた複数のパンツ型おむつの中から特定のものを取り出して、このパンツ型おむつの前後を確認するといった煩雑な作業が必要であった。

10

【0007】

本発明は、上記課題に鑑みてなされたものであり、重ねられた状態であっても、サイズや前後方向等の識別情報を容易に認識することのできるパンツ型使い捨ておむつ及びその製造方法を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記課題を解決するために本発明は、前腹部と、後背部と、これら各部間の股部の両側に形成された脚穴部と、前記前腹部と後背部の両側縁部を接合することにより形成されるウエスト開口部とを有するとともに、上記股部に吸収性本体を備えたおむつ本体を備え、上記前腹部及び後背部のウエスト開口部に対応する部分には、ウエスト用弾性部材がおむつ幅方向に伸張状態で添設される一方、上記脚穴部には、脚穴に沿って脚穴用弾性部材が伸張状態で添設されたパンツ型使い捨ておむつであって、上記おむつ本体には、前腹部と後背部とを重ねるように複数のおむつ本体を重ねた場合に各おむつ本体の側方位置から確認可能となるように、当該おむつ本体のサイズや前後方向等の識別情報を表示する表示部が形成されていることを特徴とするものである。

20

【0009】

上記パンツ型使い捨ておむつにおいて、上記おむつ本体は、前腹部と後背部とを連結するシートが股部に対応する位置で折り返されることにより構成されているとともに、上記表示部は、上記シートの折り返された外側部分に形成されていることが好ましい。

30

【0010】

上記パンツ型使い捨ておむつにおいて、上記表示部は、上記前腹部及び後背部に亘って延設されている態様、上記前腹部側へ延設されている態様、上記後背部側へ延設されている態様の何れもが好ましい実施態様である。

【0011】

上記パンツ型使い捨ておむつにおいて、上記おむつ本体の長さ方向において表示部の形成位置に対応する個所に脚穴用弾性部材が添設されていないことが好ましい。

【0012】

上記パンツ型使い捨ておむつにおいて、上記表示部は、包装袋に収容するために折り畳まれたおむつ本体における折り畳まれた外側部分に形成されていることが好ましい。

40

【0013】

上記パンツ型使い捨ておむつにおいて、上記表示部は、おむつ本体に対してインクジェット方式により印刷されていることが好ましい。

【0014】

また、本発明法は、前腹部と後背部とを構成するシートを股部に対応する位置で折り返しておむつ本体を製造するパンツ型使い捨ておむつの製造方法であって、上記シートが折り返し線と平行するように複数連結された連続シートを当該折り返し線と平行する方向へ搬送する工程と、上記連続シートの脚穴部に対応する位置を開口する工程と、開口されたシートにおける折り返し線の近傍で折り返し時の外側となる位置に、おむつ本体のサイズや前後方向等の識別情報をインクジェット方式により断続的に印刷する工程とを備えてい

50

ることを特徴とする方法である。

【発明の効果】

【0015】

本発明によれば、複数のおむつ本体を重ねた場合に、これらおむつ本体の側方位置から表示部を確認することができるため、各おむつ本体が重ねられたままの状態でおむつ本体のサイズや前後方向を識別することができる。さらに、本発明の表示部を着用時に確認すれば、着用者は、おむつ本体のサイズや前後方向等を間違えることなく、適切におむつ本体を着用することができる。

【0016】

請求項2のパンツ型使い捨ておむつによれば、股部が側方へ向いた状態で重ねられたおむつ本体のサイズや前後方向等を識別することができる。また、上記構成では表示部が股部の折り返された外側部分、すなわち、着用者の両太腿間に表示部が配置されているため、着用した際に表示部を比較的目立たないようにすることができる。

10

【0017】

請求項3のパンツ型使い捨ておむつによれば、例えば、サイズ毎に複数のおむつ本体を重ねている場合に、その束の上部に載置されたおむつ本体を上方から確認することにより、当該おむつ本体の束がどのサイズの束であるのかを識別することができる。

【0018】

請求項4のパンツ型使い捨ておむつによれば、着用時に表示部の延設された側がおむつ本体の前方側であることを識別することができる。

20

【0019】

請求項5のパンツ型使い捨ておむつによれば、着用時に表示部の延設された側がおむつ本体の後方側であることを識別することができる。

【0020】

請求項6のパンツ型使い捨ておむつによれば、脚穴用弾性部材の弾性力により表示部に表示された識別情報が縮んでしまうことを抑制することができるため、当該股部に形成された表示部をより鮮明に表示させることができる。

【0021】

請求項7のパンツ型使い捨ておむつによれば、包装袋に収容されたおむつ本体を取り出し、そのまま重ねた場合であっても、当該おむつ本体の識別情報を確認することができる。

30

【0022】

請求項8のパンツ型使い捨ておむつによれば、おむつ本体に対して印刷するといった比較的簡便な方法で表示部を形成することができる。また、上記構成ではインクジェット方式により表示部を印刷しているため、識別情報の内容を比較的容易に変更することができるという利点もある。

【0023】

本発明のパンツ型使い捨ておむつの製造方法によれば、脚穴部が開口されたシートに対してインクジェット方式により断続的に表示部を印刷するため、脚穴部が開口されていない連続シートに対して折り返し線に沿って断続的に表示部を印刷し、その後脚穴部を開口する場合と比較して、脚穴部に対応する連続シート上の位置を印刷するのに要するインク量を低減させることができる結果、パンツ型使い捨ておむつのコストを低減させることができる。

40

【発明を実施するための最良の形態】

【0024】

以下、本発明の好ましい実施形態について図面を参照して詳細に説明する。

【0025】

図1に示すように、パンツ型使い捨ておむつ1は、おむつ本体2と、吸収性本体3とで基本構成されている。

【0026】

50

上記おむつ本体 2 は、図 1 及び図 2 に示すように、前腹部 P と後背部 Q との間の股部 R の両側に脚穴部 S を形成した内装（着用者の肌側）シート 4 と外装（外面側）シート 5（これら双方がシートに対応する）とを備え、内装シート 4 と外装シート 5 との間の前腹部 P と後背部 Q とのウエスト部分には、おむつ長さ方向 X に狭い間隔で、複数本のウエスト用弾性部材 6 がおむつ幅方向 W に伸張状態で添設されているとともに、ボディ部分には、おむつ長さ方向 X に広い間隔で、複数本のボディフィット用弾性部材 7 がおむつ幅方向 W に伸張状態で添設されている。

【0027】

また、脚穴部 S には、脚穴に沿って複数本の脚穴用弾性部材 8 が内装シート 4 と外装シート 5 との間に伸張状態で添設されている。この脚穴用弾性部材 8 は、おむつ長さ方向 X における股部 R の略中央位置（後述する表示部 20 の形成位置に対応する個所）を除いた位置に添設されている。

10

【0028】

そして、各弾性部材 6～8 を間に挟んだ状態で、内装シート 4 と外装シート 5 とがホットメルト接着剤等で接着されるとともに、外装シート 5 の両端部に上記おむつ長さ方向 X へと突設された余剰部 5a が、内装シート 4 の両端部を包み込むように折り返され、当該内装シート 4 の両端部に接着されることとなる（図 2 参照）。

【0029】

上記おむつ本体 2 は、詳しくは後述するが、前腹部 P と後背部 Q とを重ね合わせるように内装シート 4 を内側にして折り返して、前腹部 P と後背部 Q の側縁部 1a をそれぞれ接合するようになっている。このとき、おむつ本体 2 は、おむつ長さ方向 X における股部 R の略中央位置で折り返されることとなり、この折り返し位置の外側となる部分、すなわち外装シート 5 には、図 3 に示すように表示部 20 が形成されている。

20

【0030】

表示部 20 は、本実施形態において、おむつ本体 2 のサイズ（M サイズ；識別情報の一例を構成している）を表示する「M」の文字がおむつ幅方向 W に沿って一列に配列され、これら「M」の文字は、前腹部 P を上にしておむつ本体 2 を載置した場合に読取ることができる向きで記載されている。

【0031】

上記おむつ本体 2 がおむつ幅方向 W に横流れ状態で製造される場合には、図 4 に示すように、上記表示部 20 が形成されたおむつ本体 2 の連続シート 21 を折り返し線 A（すなわち、股部 R の中心線）に沿って折り返し、前腹部 P 及び後背部 Q のウエスト部分の位置合せを行い、これら前腹部 P と後背部 Q とを側縁部 1a で熱溶着等によって接合した後、カットライン B に沿って個々のおむつ本体 2 に切り離すこととなる。このように、両側縁部 1a、1a が接合されることによって、ウエスト開口部の形成されたおむつ本体 2 が組み立てられることとなる。

30

【0032】

上記のように内装シート 4 及び外装シート 5 が折り返し線 A と平行して連結された連続シート 21 を横流れ作業で加工する場合には、具体的に図 5 に示すような加工装置 22 が用いられる。この加工装置 22 は、上記折り返し線 A と平行する搬送経路に沿って連続シート 21 を搬送する複数の搬送ローラ 23 と、搬送経路の上流側に配置されたレッグカッター 24 と、このレッグカッター 24 の下流側に配置された印刷装置 25 と、この印刷装置 25 の下流側に配置された折り返し部 26 とを備えている。

40

【0033】

レッグカッター 24 は、搬送された連続シート 21 における脚穴部 S に対応する位置を開口するように構成されている。

【0034】

印刷装置 25 は、予め設定された印刷パターンに応じてインクを噴射するノズル 25a と、このノズル 25a の下流側でインクを乾燥させる乾燥装置 25b とを備え、上記レッグカッター 24 により脚穴部 S の形成された連続シート 21 の折り返し線 A に対応する位

50

置で外装シート5に対して断続的に表示部20を印刷するようになっている。

【0035】

折り返し部26は、図では省略しているが、上記連続シート21を折り返し線Aに沿って折り返す機構を備えている。

【0036】

上記加工装置22により加工された連続シート21は、その後、上述したように両側縁部1aで接合された後、カットラインBに沿って個々のおむつ本体2に切り離されることとなる。

【0037】

上記内装シート4は、撥水性不織布材料（スパンボンド不織布、メルトブロー不織布、SMS不織布等）が用いられる。好ましくは、目付10～25 g/m²の撥水性不織布材料である。また、内面のみを親水化〔界面活性剤を塗布する、あるいは親水性繊維（レーヨン、コットン等）の層を作る。〕しても良く、この場合には、肌に当接した場合の感触が良くなり、吸汗効果も期待できる。

【0038】

上記外装シート5は、撥水性不織布材料（スパンボンド不織布、メルトブロー不織布、SMS不織布等）が用いられる。好ましくは、目付10～25 g/m²の撥水性不織布材料である。

【0039】

上記吸収性本体3は、図4及び図6に示すように、トップシート10とバックシート11との間に、被覆シート12で包んだ略砂時計形の吸収性コア13を挟み込んで形成されて、おむつ前後方向Xに延在するようになる。

【0040】

上記吸収性本体3のトップシート10の内面（上面）の両側部には、おむつ前後方向Xに延在する立ち上がりフラップ15の基端部15aがそれぞれ接着されて上方に立ち上げられ、その上端が内向きに折り返され、この折り返し内にフラップ用弾性部材16がおむつ前後方向Xに伸張状態で添設されることにより、立ち上がりフラップ15が立ち上がるようになる。この立ち上がりフラップ15の前後端部の内面は、トップシート10に倒伏状態で接着されている。

【0041】

上記吸収性本体3の被覆シート12と吸収性コア13との間には、吸収性コア13に対して、おむつ幅方向Wの全幅に亘って所定の間隔で、複数本の股間用弾性部材17が前後方向Xに伸張状態で添設されている。

【0042】

上記吸収性本体3の吸収性コア13は、トップシート10とバックシート11とに、ほぼ全面的にホットメルト接着剤等で接着されるとともに、このバックシート11は、上記おむつ本体2の股部Rの内装シート4に、ほぼ全面的にホットメルト接着剤等で接着されている。

【0043】

上記吸収性コア13は、粉碎したパルプ繊維やセルロース繊維等の親水性繊維集合層に粒状の高分子吸水体を混合したものを、ティッシュペーパーなどの紙シートあるいは透液性不織布シート等の被覆シート12で包んで、所定形状（長方形、砂時計型、ひょうたん型等）に成形したものである。上記繊維や高分子吸水体をシート状に成形したシート状体（例えば、エアレイド吸水体）等を、所定形状に成形して用いても構わない。また、着用者が歩いたり、寝返りを打ったりしても形状を保持できるように、親水性繊維集合層中やシートに形状保持手段（ホットメルト接着剤の塗布、合成繊維の混合）を施しても構わない。

【0044】

上記トップシート10は、透液性不織布材料が好ましい。例えば、親水性繊維（セルロース、レーヨン、コットン等）を用いた不織布材料、あるいは疎水性繊維（ポリプロピレ

10

20

30

40

50

ン、ポリエステル、ポリアミド、ナイロン等)の表面を界面活性剤により処理し、透液性とした不織布材料が用いられる。好ましくは、目付10～25 g/m²の疎水性繊維の片面を界面活性剤により処理し透液性とした不織布材料(ポイントボンド不織布、エアースルー不織布)である。

【0045】

上記バックシート11は、撥水性不織布材料(スパンボンド不織布、メルトブロー不織布、SMS不織布等)、プラスチックフィルム(通気性であっても非通気性であっても良いが、好適な態様としては通気性プラスチックフィルムが望ましい)やその複合材料が用いられる。好ましくは、目付15～40 g/m²の通気性ポリエチレンフィルムである。

【0046】

上記立ち上がりフラップ15は、撥水性不織布材料(スパンボンド不織布、メルトブロー不織布、SMS不織布等)が用いられる。好ましくは、目付10～25 g/m²の撥水性不織布材料である。

【0047】

上記被覆シート12は、ティッシュペーパーなどの紙シートあるいは透液性不織布シート等が用いられる。

【0048】

上記各弾性部材6～8、16、17は、通常使い捨ておむつに用いられる弾性伸縮材料(ポリウレタン糸、ポリウレタンフィルム、天然ゴム等)が用いられ、各シート材料の間に伸張状態で、ホットメルト接着剤、熱接着、超音波接着など好適な添設手段でもって添設される。好ましくは、ゴム系のホットメルト接着剤である。

【0049】

ウエスト用弾性部材6は、織度700～2000デシテックスのポリウレタン糸を、倍率2.0～5.0倍に伸張して添設するのが好ましい。

【0050】

ボディフィット用弾性部材7は、織度300～1000デシテックスのポリウレタン糸を、倍率1.1～5.0倍に伸張して添設するのが好ましい。

【0051】

脚穴用弾性部材8は、織度700～2000デシテックスのポリウレタン糸を倍率1.1～3.0倍に伸張して添設するのが好ましい。

【0052】

フラップ用弾性部材16は、織度300～2000デシテックスのポリウレタン糸を、倍率1.1～4.0倍に伸張して添設するのが好ましい。

【0053】

股間用弾性部材17は、織度300～2000デシテックスのポリウレタン糸を、倍率1.1～4.0倍に伸張して添設するのが好ましい。

【0054】

各シート材料の接合は、ホットメルト接着剤、熱接合、超音波シール等の方法が適宜用いられる。ホットメルト接着剤については、ゴム系、ポリオレフィン系、酢酸ビニル系等のホットメルト接着剤から適切に選定して、直接的なコーター塗布、間接的なスパイラル塗布、メルトブロー(カーテンスプレー)塗布、ビード塗布等の方法で塗布する。なお、上記側縁部1aについては、熱接合が好ましい。

【0055】

なお、上記実施形態では、表示部20の識別情報としてサイズを表示することとしているが、これに限定されることはなく、例えば、図7に示すようにおむつ本体2の前後方向を指示するような図柄(本実施形態では、表示部20に対する前腹部Pの方向を示す「▲」形状を示している)を表示することも可能である。この実施形態においては、サイズを示す「M」の文字と、方向を示す「▲」の図柄がおむつ幅方向に沿って交互に配置されている。

【0056】

10

20

30

40

50

また、上記実施形態では、前腹部Pを上にしておむつ本体2を載置した場合に読取ることができる向きで記載されているが、表示部20における文字の方向は、これに限定されることはなく、例えば、後背部Qを上にしておむつ本体2を載置した場合に読取ることができるように記載されていてもよい。

【0057】

さらに、上記実施形態では、おむつ長さ方向Xにおける表示部20の形成位置に対応する個所に脚穴用弾性部材8を添設しないこととしているが、これに限定されることはない。例えば、脚穴部Sの全周に沿って脚穴用弾性部材8を添設し、おむつ長さ方向Xにおける表示部20に対応する脚穴用弾性部材8の途中部をカットすることにより、その弾性力を低下させることも可能である。

10

【0058】

また、上記各実施形態では、股部Rの折り返し線Aに対応する位置で外装シート5に表示部20を形成することとしているが、これに限定されることはなく、例えば、包装袋に収容するために折り畳まれたおむつ本体2の折り畳まれた外側部に表示部20を形成することもできる。

【0059】

具体的におむつ本体2を包装袋に収容するために、図8の(a)に示すように、吸収性本体3の両側でおむつ長さ方向Xに沿って延びる一対の折り返しラインCに沿って両側縁部1aを内側に折り畳み、次いで、図8の(b)に示すように、折り畳まれた両側縁部1aを覆うようにおむつ本体2の下端部を折り返しラインDに沿って折り畳むことができ、このようにすると、おむつ本体2は、図8の(c)に示すような平面視略正方形に折り畳まれることとなる。このように折り畳まれたおむつ本体2に対しては、図10の(a)に示すように、上記折り返しラインDで折り返された外側部に対して表示部(本実施形態では「S」サイズを示している)20aを形成することができる。なお、このように折り畳まれた場合は、前記表示部20aに代えて、又は加えて上記各折り返しラインCで折り返された外側部に対して表示部を形成することも可能である。

20

【0060】

また、おむつ本体2を包装袋に収容する場合には、上記両折り返しラインCで両側縁部1aを折り畳んだ後、図9の(a)に示すように、上記折り返しラインDよりも下方位置でおむつ幅方向Wに沿って延びる折り返しラインEに沿っておむつ本体2を折り畳み、次いで、この状態の下端部(折り畳みラインE)と上端部(ウエスト開口部)との位置を合わせるように図9の(b)に示す折り返しラインFに沿っておむつ本体2を上下半分に折り畳むこともでき、このようにすると、おむつ本体2は、図9の(c)に示すような平面視略長方形に折り畳まれることとなる。このように折り畳まれたおむつ本体2に対しては、図10の(b)に示すように、上記折り返しラインFで折り返された外側部に対して表示部(本実施形態では「L」サイズを示している)20bを形成することができる。なお、このように折り畳まれた場合は、前記表示部20bに代えて、又は加えて上記各折り返しラインC、Eで折り返された外側部に対して表示部を形成することも可能である。

30

【0061】

さらに、上記各実施形態においては、折り返された外側部にのみ表示部20、20a、20bを形成することとしているが、これに限定されることはなく、例えば、図11に示すように、表示部20をおむつ本体2の前腹部Pまで延設させる、すなわち、表示部20の表示情報を前腹部Pにも表示させることが可能である。ここで、表示部20の延設個所は前腹部Pに限定されることはなく、後背部Qに対して表示部20を形成することや、これら前腹部P及び後背部Qの双方に表示部20を形成することも可能である。

40

【0062】

以上説明したようにパンツ型使い捨ておむつ1によれば、複数のおむつ本体2を重ねた場合に、これらおむつ本体2の側方位置から表示部20、20a、20bを確認することができるため、各おむつ本体2が重ねられたままの状態でおむつ本体2のサイズや前後方向を識別することができる。さらに、上記表示部20、20a、20bを着用時に確認す

50

れば、着用者は、おむつ本体 2 のサイズや前後方向等を間違えることなく、適切におむつ本体を着用することができる。

【0063】

上記表示部 20 を股部 R で折り返された外装シート 5 の外側部分に形成した構成とすれば、股部 R が側方へ向いた状態で重ねられたおむつ本体 2 のサイズや前後方向等を識別することができる。また、表示部 20 が股部 R の折り返された外側部分、すなわち、着用者の両太腿間に表示部 20 が配置されているため、着用した際に表示部 20 を比較的目立たないようにすることができる。

【0064】

上記表示部 20 を前腹部 P 及び後背部 Q に対して延設した構成とすれば、例えば、サイズ毎に複数のおむつ本体 2 を重ねている場合（図 11 参照）に、その束の上部に載置されたおむつ本体 2 を上方から確認することにより、当該おむつ本体 2 の束がどのサイズの束であるのかを識別することができる。

10

【0065】

上記表示部 20 を前腹部 P に対して延設した構成とすれば、着用時に表示部 20 の延設された側がおむつ本体 2 の前方側であることを識別することができる。

【0066】

上記表示部 20 を後背部 Q に対して延設した構成とすれば、着用時に表示部 20 の延設された側がおむつ本体 2 の後方側であることを識別することができる。

【0067】

20

上記両脚穴部 S 間の表示部 20 が形成された位置に脚穴用弾性部材 8 を非設置とした構成によれば、脚穴用弾性部材 8 の弾性力により表示部 20 に表示された識別情報が縮んでしまうことを抑制することができるため、当該股部 R に形成された表示部 20 をより鮮明に表示させることができる。

【0068】

包装袋に収容するために折り畳まれたおむつ本体 2 における折り畳まれた外側部分に表示部 20 a、20 b を形成した構成によれば、包装袋に収容されたおむつ本体 2 を取り出し、そのまま重ねた場合であっても、当該おむつ本体 2 の識別情報を確認することができる。

【0069】

30

上記表示部 20、20 a、20 b をインクジェット方式により印刷するようにすれば、比較的簡便な方法で表示部 20、20 a、20 b を形成できるとともに、識別情報の内容を比較的容易に変更することができる。

【0070】

また、パンツ型使い捨ておむつ 1 を製造するために、前腹部 P と後背部 Q とを構成する内装シート 4 及び外装シート 5 が折り返し線 A と平行するように複数連結された連続シート 21 を当該折り返し線 A と平行する方向へ搬送し、この連続シート 21 の脚穴部 S に対応する位置を開口した後、開口されたシートにおける折り返し線 A の近傍で外側シート 5 上に、おむつ本体 2 の識別情報を表示する表示部 20 をインクジェット方式により断続的に印刷するとしている。そのため、脚穴部 S が開口されていない連続シートに対して折り返し線 A に沿って連続的に表示部 20 を印刷し、その後脚穴部 S を開口する場合と比較して、脚穴部 S に対応する連続シート 21 上の位置を印刷するのに要するインク量を低減させることができる結果、パンツ型使い捨ておむつ 1 のコストを低減させることができる。

40

【0071】

また、上記実施形態では、内装シート 4 に吸収性本体 3 が接着されたパンツ型使い捨ておむつ 1 に対して表示部 20、20 a、20 b を採用することとしているが、この構成に代えて、内装シート 4 と外装シート 5 との間に吸収性本体 3 が配設されたパンツ型使い捨ておむつに対して、上記表示部 20、20 a、20 b を適応することも可能である。

【図面の簡単な説明】

【0072】

50

【図 1】 本発明の実施形態に係るパンツ型使い捨ておむつを示す斜視図である。

【図 2】 図 1 の II－II 線断面図である。

【図 3】 図 1 のおむつ本体の組立後の状態を示す斜視図である。

【図 4】 図 1 のパンツ型使い捨ておむつの製造過程における平面図である。

【図 5】 図 4 の製造過程に使用される加工装置を模式的に示した側面図である。

【図 6】 図 1 の VI－VI 線断面図である。

【図 7】 別の実施形態の表示部が形成されたおむつ本体の正面図である。

【図 8】 収容袋に収容するおむつ本体の折り畳み過程を示す平面図であり、（a）は折り畳み前の状態、（b）は両側縁部が折り畳まれた状態、（c）は下端部が折り畳まれた状態をそれぞれ示している。

10

【図 9】 収容袋に収容するおむつ本体の折り畳み過程を示す平面図であり、（a）は両側縁部が折り畳まれた状態、（b）は下端部が折り畳まれた状態、（c）はさらに下端部が折り畳まれた状態をそれぞれ示している。

【図 10】 折り畳まれたおむつ本体に形成された表示部を示す斜視図であり、（a）は図 8 のように折り畳まれたおむつ本体、（b）は図 9 のように折り畳まれたおむつ本体をそれぞれ示している。

【図 11】 さらに別の実施形態の表示部が形成されたおむつ本体が重ねられた状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

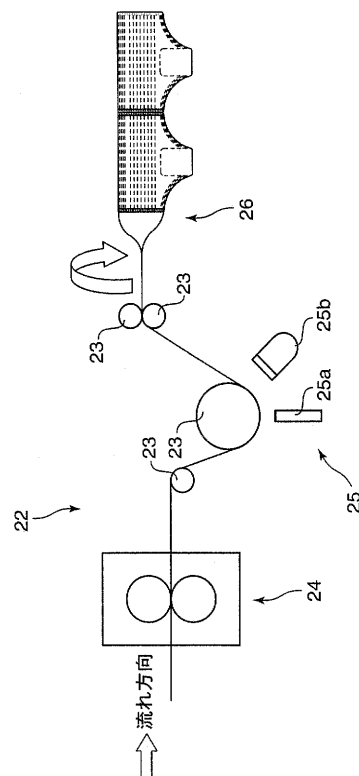
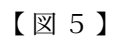
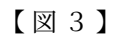
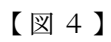
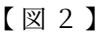
【0073】

20

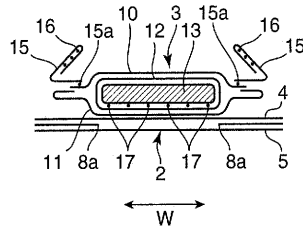
- 1 パンツ型使い捨ておむつ
- 2 おむつ本体
- 3 吸収性本体
- 6 ウエスト用弾性部材
- 8 脚穴用弾性部材
- 20 表示部
- 21 連続シート
- 22 加工装置
- A 折り返し線
- P 前腹部
- Q 後背部
- R 股部
- S 脚穴部

30

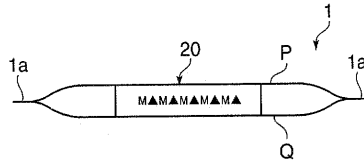
【 図 1 】



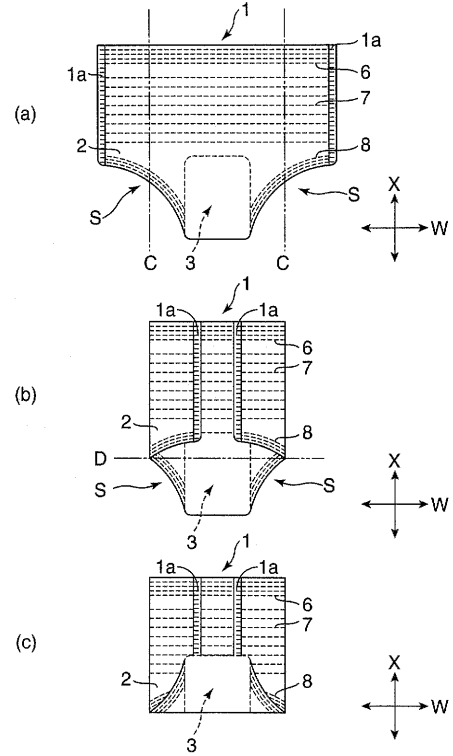
【図 6】



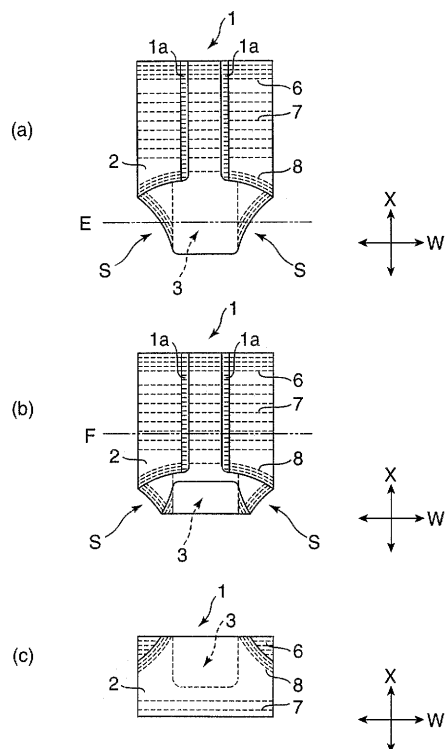
【図 7】



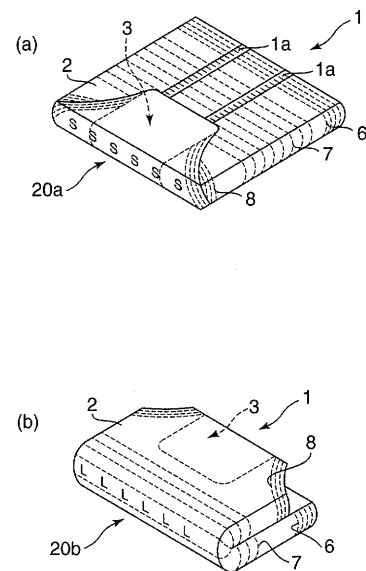
【図 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

(72)発明者 星川 正

大阪市中央区瓦町1丁目6番10号 株式会社リブドゥコーポレーション内

審査官 内山 隆史

(56)参考文献 国際公開第02/096331 (WO, A1)

特開2002-136545 (JP, A)

特開2000-42029 (JP, A)

特開平11-113956 (JP, A)

登録実用新案第3021190 (JP, U)

特開2000-266 (JP, A)

特開2000-237233 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61F 13/15 - 13/84

A61F 5/44

B65D 85/00 - 85/28